第29回国際庶民銀行連合大会に参加して

理事研究員　髙島　浩

国際庶民銀行連合(Confédération Internationale des Banques Populaires、以下「CIBP」)は、2015年10月にブラジル　リオデジャネイロで「庶民・協同組合銀行を強化するイノベーション」をテーマとして大会を開催した。CIBPは、３年に１度、協同組合銀行の活動に関連したテーマで大会を開催しており、今回は29回目であった。この大会には、欧州および南北アメリカ大陸の協同組合銀行関係者360名が参加し、２日間にわたり協同組合銀行が抱える課題等について議論が行われ、小職もゲストとしてパネルディスカッションに参加したので、その内容を紹介したい。(注)

1　CIBPの概要

CIBPは、1950年にフランスにおいて協同組合銀行間協同ネットワークを構築することを目的に設立され、現在ブリュッセルに本拠を置く国際的な非営利団体である。会員は、リテールおよび中小企業融資を中心的に行う庶民銀行(英語ではPopular Bankと称する協同組合銀行)15団体で、欧州を中心に10か国の協同組合銀行が参加している。その使命は、①協同組合理念に基づき庶民銀行のビジネスモデルや組織を強化すること、②会員のための国際的な学習フォーラムやネットワークを提供すること、③会員のメンバーや地域への貢献や協同組合銀行の利点についての認知度向上をはかること、などである。

第29回国際庶民銀行連合大会の様子

2　ブラジルの協同組合銀行

大会では、CIBP会長の挨拶や開催国を代表したリオデジャネイロ州知事の来賓挨拶のほか、40名の団体代表者、研究者ほかが、イノベーション、デジタル革命、人材マネジメントなど協同組合銀行が抱える課題についてのプレゼンテーションやパネルディスカッションが行われた。

冒頭のセッションにおいては、ブラジルの協同組合銀行の取組みが紹介され、90年代後半以降、20年弱で協同組合銀行が大きく発展してきたことが紹介された。協同組合銀行運動は1902年より始まってはいるが、国営銀行が独占していたブラジルの銀行システムにおいて、90年代まで協同組合銀行の活動はほとんど無視されてきた。95年に協同組合銀行法が施行され、活動が本格化。現在ではブラジル全土を網羅し、450の地域で協同組合銀行が唯一の金融機関となっているとの報告があった。また、規模は金融システムの５％に満た

ないものではあるが、７百万人以上の組合員を有し、預金、貸出の伸び率も国営を含む商業銀行のそれを上回っており、現在も拡大しているとのことであった。

3　イノベーションについての討議

ブラジルの協同組合銀行の取組みについてのセッションの後、今大会の中心的なテーマであるデジタル革命等のイノベーションを協同組合銀行のビジネスモデルにおいて取り入れていくかの討議を行った。

研究者、コンサルタントによるイノベーション、デジタル化についての国際的な動向やリテールビジネスに与える影響についてのプレゼンテーションの後、各団体の代表者がそれぞれの組織における取組みや悩みについての率直な意見が表明されている。例えば、モバイルバンキングにより顧客との接点が減少していることや、デジタル化によりクリックひとつで借入が可能であり、若年層を中心に教育が重要であることなどの意見が多く出されていた。大会参加者にも協同組合銀行はイノベーションの文化が足りないのではないかとの自己認識があり、真剣に討論に耳を傾けていた。

4　成長のための経営戦略

上記に続く残りのセッションにおいては、高齢化等の人口動態、規制、人材マネジメント、組織の効率性・成長性など、協同組合銀行の経営に与える影響についての広範な議論が行われた。小職からは、JAバンクの仕組みと地域活性化への取組みについての説明を実施した。

欧州の協同組合銀行からは、少子高齢化により今後組合員数が減少することが想定され、若年層の組合員獲得が必要であり、若手にアピールするために大学との連携やソーシャルネットワークの活用などを行っているという取組みが報告された。

また、リテールビジネスにおいても、商業銀行および他業態との競争が激化してきていることから、今後の経営戦略を考えるうえでIT等のイノベーションの積極的な組入れによる組織の活性化や外部人材活用が重要であり、先進的な取組みを行っている事例等の紹介があった。

5　協同組合銀行間の協同

大会の最後には、各団体の代表者による総括質疑が行われ、規制、デジタル化および競争の激化を踏まえて協同組合銀行のビジネスモデルを変革する必要があるとの共通認識が確認された。そのうえで、協同組合銀行にとっての成長の要は、組合員との親密性や連帯にあり、新しい技術を取り入れつつも協同組合としての基本を重視することが必要であるとの意見が多く出されていた。

大会終了後、ブラジル協同組合銀行のひとつを訪問したが、その際、幹部は、ブラジルの協同組合銀行がここまで成長したのは、欧州など各国の協同組合銀行の取組みを参考にしたことが奏功したと語った。また、今回の大会をブラジルで開催したことを契機に、さらに運動を拡大させたいとの抱負を語っていた。協同組合銀行間の協同が重要であることを改めて認識する大会となった。

（たかしま　ひろし）

(注)大会プログラムや配布資料は、下記のサイトから閲覧可能。
http://www.cibpcongress.com/en/